

第3章 計画の目標と体系

1. 目指す環境像

本計画の上位計画である蓮田市第5次総合振興計画にて掲げた本市の将来像「四季かおる つながり 安心 活^いきるまち」を環境面から目指すため、本計画の目指す環境像は第1次環境基本計画から引き継ぎ、次のとおり定めます。

目指す環境像

人と自然とが共生できるまち蓮田

蓮田は、元荒川や黒浜沼・山ノ神沼などの水辺空間、広大な田園や樹林などの豊かな自然に抱かれています。そして、古代から人々が生活を営み、自然と共生しながら発展を続けてきました。

しかし、人類の社会経済活動が活発になり、環境に与える負荷が増大した結果、地球環境を脅かすまでに至っています。

私たちは、良好な環境を人類だけでなく全ての生物と共有していることを認識し、将来世代に引き継いでいく責任があります。

先人たちの生活を見習いながら、環境への影響を配慮し、環境への負荷の少ない持続可能な社会の構築を目指します。



2. 環境目標

目指す環境像の実現に向け、4つの環境分野別に環境目標を次のとおり設定します。第1次計画においては、8つの環境目標を掲げ計画を推進してきましたが、市民アンケートや第1次計画の進捗状況、現在の社会動向等を勘案し、以下に示します4項目を環境目標として設定しました。

1 【自然環境】 都市・緑・水辺が調和し、生物が生き生きとしているまち

市内を縦断する元荒川をはじめとした河川や黒浜沼等の水辺環境、周囲に広がる農地や市内に現存する雑木林や社寺林等の緑の保全が進み、それらを拠点とした緑のネットワークが形成されることで、多様な生物が生息・生育するまちを目指します。

2 【生活環境】 快適で、安心してこれからも住み続けたいまち

大気環境や水環境の「良好な」状態が保たれ、感覚公害（騒音・振動・悪臭等）による被害が防止されるとともに、不法投棄をなくして“蓮田市らしい”景観を守ることにより、本市で生活する人々がこれからも安心して住み続けたいと思うまちを目指します。

3 【地球環境】 脱炭素社会¹⁴に向け、資源循環型の持続可能なまち

2050年のカーボンニュートラルを念頭におき、省エネ活動が充実するとともに、自然エネルギーが有効活用され、温室効果ガスの排出が少ないまちを目指します。また、できるだけごみを出さない、出してしまったごみも再利用するなど、再資源化する取組を、誰もが当たり前のよう実践する資源循環型でごみがでないまちを目指します。

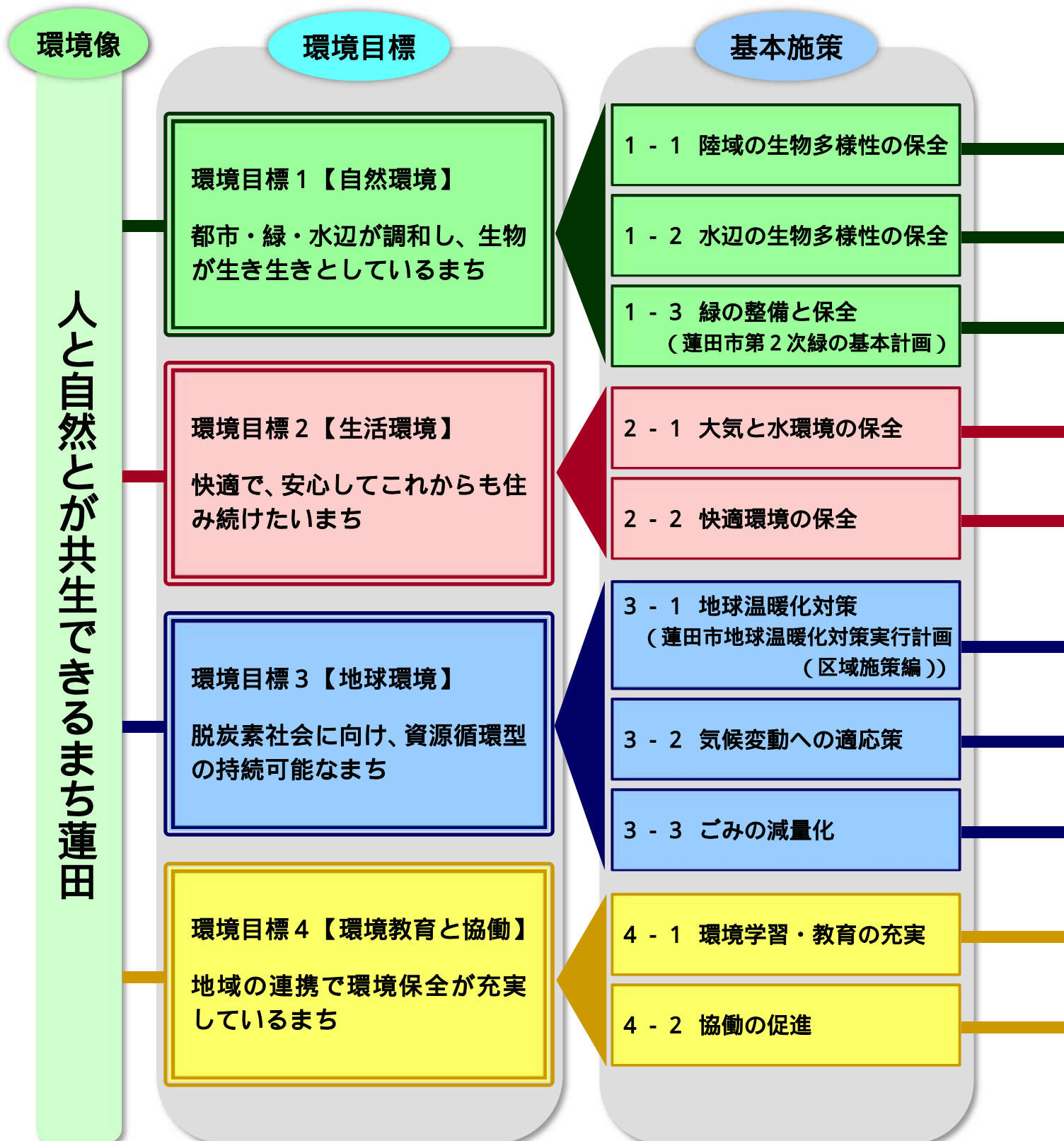
4 【環境教育と協働】 地域の連携で環境保全が充実しているまち

家庭や学校、事業所などで環境保全について話し合い、みんなが出前講座や観察会などの環境イベントや清掃活動に参加することにより、地域コミュニティが充実し、環境保全が先進的に進んだまちを目指します。

¹⁴ 脱炭素社会：地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量「実質ゼロ」を目指す社会のこと。

3. 施策の体系

目指す環境像の実現に向けて、4つの環境目標と10の基本施策、27の施策により、環境の保全と創造に向けた展開を図ります。



また、施策の展開にあたってはSDGsの考え方を取り入れ、各施策に対応したSDGs目標を示します。

施策

関連する SDGs 目標

在来種の保全 (p.41)

外来種対策の推進



池沼環境の保全 (p.43)

河川環境の保全 (p.44)



生物多様性に配慮した緑の保全・整備 (p.60)

まちの緑地の維持



大気環境の保全 (p.67)

水環境の保全

化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進



雑草等・空き家対策 (p.69)

不法投棄対策

野焼き対策

感覚公害(騒音・振動・悪臭)対策



省エネルギー化の推進 (p.77)

再生可能エネルギーの利用推進 (p.78)

温室効果ガス吸収源の確保



熱中症対策 (p.81)

防災・減災対策

外来種侵入防除策 (p.82)

農作物被害への対策



ごみの減量化の推進 (Refuse・Reduce)(p.84)

資源循環の推進 (Reuse・Recycle)(p.85)

収集運搬体制の整備



環境学習の場の提供 (p.87)

事業者の活動の促進 (p.88)



環境保全に関する情報提供の充実 (p.90)

地域活動の促進

